

Shanghai (張開敏, 上海社会科学院人口与發展研究所), Social economic impacts of Floating population in China: the case of Shanghai (左学金, 上海社会科学院人口与發展研究所), Some issues of rural population in the urbanization of Shanghai suburbs (王建民, 上海市人口学会会長), An analysis of the causes of deaths in Beijing and Shanghai (陳育徳, 中華人民共和国衛生部統計情報中心), Living environment of elderly people in China (佐々井司, 人口問題研究所), Mobilization of farmers and decreasing farmland/food problem (若林敬子, 人口問題研究所). なお, 各報告の詳細については, 人口問題研究所研究資料第290号『開発途上国の人口増加と地球環境問題の相互連関に関する基礎的研究成果報告書Ⅱ』(1997年3月刊行予定)を参照されたい。 (中川聡史記)

第60回人口問題審議会総会

第60回人口問題審議会総会(宮澤健一会長)が,平成8年7月26日(金)午後2時より厚生省特別第一会議室において開催された。総会に先立ち,新たに委員及び専門委員の任命が行われ,日本医師会会長の坪井栄孝氏が委員に,人口問題研究所人口情報部長の金子武治氏が専門委員に任命された。

総会では,第一の報告として「平成7年度国勢調査の抽出速報集計結果」の概要について,大臣官房政策課の山崎調査室長から説明があり,委員から質疑があった。第二の報告として,「平成7年人口動態統計の概況」について,大臣官房統計情報部の中田人口動態統計課長から平成7年の人口動態月報に基づく年計分の説明があった。なお,概況に示された率は国勢調査の1%の抽出結果を使って計算され,最終的な確定数は100%の集計後に公表される。

第三報告として,人口問題研究所の金子人口情報部長から「第2回人口問題に関する意識調査」の結果が報告された。この調査は1990年に引き続いて,国民の人口問題に関する意識を明らかにするために,全国の20~69歳の男女を対象として平成7年6月15日に行ったものである。

第四の報告として,人口問題研究所の高橋人口動向研究部長から「将来人口推計の基本的考え方について」の報告が行われた。この報告は,前回平成4年9月に行った推計について,その後の実績値との比較を報告したものである。なお,委員の方々から出生率の評価についてより詳細な検討が必要との指摘があり,再度このテーマで次回総会に報告することとなった。

第61回人口問題審議会総会

第61回人口問題審議会総会(宮澤健一会長)が,平成8年10月8日(火)午後5時より厚生省特別第一会議室において開催された。

今総会では,1)「平成7年簡易生命表」の報告と質疑,「将来推計人口の評価と見直しについて」の報告と質疑が行われた。

統計情報部の富澤管理企画課長から「平成7年簡易生命表」の報告があった。なお,平成7年の平均寿命は,男が76.36年,女が82.84年と,前年,平成6年の平均寿命と比較し,男で0.21年,また女で0.14年,それぞれ下回った。また,男女の平均寿命の差は平成6年に6.41年から0.07年拡大し,6.48年とこれまでの最大の格差になったことが明らかにされた。

「将来推計人口の評価と見直しについて」人口問題研究所の高橋人口動向研究部長から報告があった。とくに報告では,昭和56年,昭和61年ならびに平成4年の将来人口推計における出生率仮定設定について報告があり,技術的な変化と仮定設定上の問題点について報告がされた。また,短期的出生率予測法,出生率仮定値の反転メカニズ,および長期的出生率水準について報告がされた。なお,人口問題審議会の報告内容は,全てインターネット上の厚生省ホームページ(<http://www.mhw.go.jp>)で公開されていることを付記する。